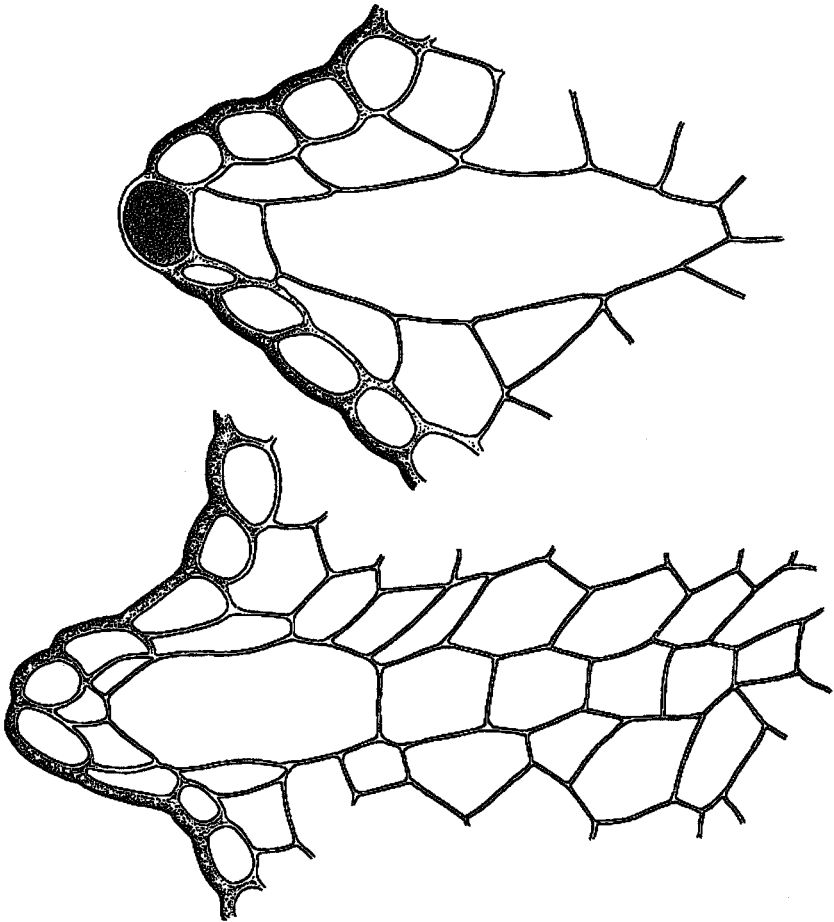


正宗巖敬\* がんぜきらの蜜腺について

Masamune, G. : On the Nectar Gland of *Phajus minor* Bl.



第1図 がんぜきらの蜜腺の断面

\* 金沢大学理学部，植物分類地理学研究室

Laboratory of Systematic Botany and Phytogeography of the University of Kanazawa.



第2図 この写真はがんぜきらんの蜜腺より蜜の湧出した状態をあらわしたもの

昨年、金沢で屋久島と八丈島産のがんぜきらんの花が咲いたので見ていると、花梗や、小苞のすぐ下の所に、露の玉のようなものがついていた（第2図写真）それを舌の先で、一寸と味わって見ると甘かつたので、ここにも蜜腺があるのだな一と思つた。そこで河合君にたのんで固定し切断して、スケッチをしてもらつたのが、ここにかかげた第1図である。この図で見られるような組織から考えてこれは、一種の花外にある蜜腺と断定してよいと私は考える。ラン科植物では一寸と珍らしいのではないかと考えて、ここに報告する。

### Résumé

Nectar gland of *Phajus minor* Bl. is found on the flower stalk, just under the point where the flower pedicel grows out. The structure of the gland is shown in the accompanied figure (fig. 1.) and the view of the state of discharging the nectar is shown in the photograph. (fig. 2.)

○ 四国にヒトツバノキシノブがある（里見信生）Nobuo Satomi : *Saxiglossum taenioides* Ching var. *Sasakii* (Hayata) Masamune, New to Shikoku (Mt. Tairyūji, Pref. Tokushima)

下沢伊八郎氏が採集された（台湾：新竹州竹東郡シヤカロー；Jul. 13, 1938）ヒトツバノキシノブを見ていて、これに一致する植物を私自身、かつて採集したことがある事を思ひ出したので、今夏帰省中、郷里においてある未整理標本をかき廻してみたところ、果してヒトツバノキシノブの一葉が出て来て喜びの声をあげた。その産地は徳島県那賀郡大竜寺山である。この山は阿部近一氏によつてタヌキノシヨクダイ *Glaziocharis Abei* Akasawa が最初に見出され（昭和18年）、その後も珍品稀品が出ることから採集家の間で特に有名になつた。私も数度登つたが、問題のこの羊歯を得たのは昭和21年10月6日で、既に10余年前のこととなる。従つてその時の記憶も薄らぎ、大竜寺山のどの辺で採つたか、はつきりしない。然し、この時は新居文夫氏と颱風の通過後に行つたので倒木に着生していたムギラン、マメズランと共に樹皮よりはぎ取つたと思う。今夏、倉田悟氏と一緒に大竜寺山に登り、この羊歯の話をしたが、彼は疑わしいと言う。再発見したいものである。種々御教示をいただいた正宗巖敬先生、倉田悟氏、下沢伊八郎氏に深謝致します。